一般質問

編集／大町町議会
大町町企画政策課

ひじりんピックの総括と今後に向けた取組みについて　三谷　英史

議員　より多くの町民が参加されるイベントとするために。昨年度は初回ということもあり、参加者が若干少ないように感じた。より多くの町民が参加されるイベントとするために、ひじりんピックの総括と今後に向けた取組みについて伺いたい。

教育委員会事務局長　まず、ひじりんピックの開催に至った経緯について、以前は、毎年10月に町民運動会が開催されていたが、気象条件、豪雨災害やその後に続く新型コロナウイルス感染症等の影響により、平成30年から7年間開催していない。その間、環境の変化による熱中症など健康被害への懸念や、複数の地区からは、分館対抗種目への参加者を確保することが難しくなっているという意見が寄せられていた。

　そのような中で、これまでどおりの時期や形式で町民運動会の開催は困難であろうとのことから、町民が気軽に参加し、スポーツに親しむことができるイベントを模索することになった。

　その後、令和6年12月に町内の各種団体の代表者を委員に迎え、「町民が触れ合う場を社会体育の立場でイベントを設定する」という目的を掲げ、第1回実行委員会から7回の会議を行った。その結果、スポーツを通して①町民間のコミュニケーションを図り、お互いの絆を深める②スポーツの楽しさに触れることで、町民一人ひとりの生涯スポーツに繋げる③スポーツを通して健康寿命の延伸に繋げるを目標としたスポーツイベント「大町ひじりんピック」の開催を決定した。

　町制90周年の記念の年である令和8年3月15日に、第1回ひじりんピックを開催したところ、分館参加種目であるベースボール5やeスポーツ、グラウンドゴルフには、町内31地区のうち17分館から計149人、自由参加種目のボッチャやウォーキングフットボール、玉入れには計409人、両競技には、重複を含めて延べ558人に参加していただいた。

▲競技を楽しむ参加者の皆さん

　第1回大会の目標としていた「競技参加者数を人口の5％以上とする。」は達成できたと考えているが、2回目以降は更に目標を高く掲げ、昨年度を超える分館の参加と、なるべく多くの町民に、スポーツに親しんでいただくと同時に、町民同士の絆を更に深めていただきたいと考えている。

　また、当日の参加者や区長にアンケートを実施した。

　このアンケート結果については、5月に開催された分館長会や区長会でも報告し、具体的な意見も多数いただいた。まだまだ手探りの状態であったことは否めないが今後は、いただいた意見を基に、より多くの町民が参加しやすい開催時期や競技種目の選定と、認知度をあげるべく広報に努め、ひじりんピックをより良いものにしていきたい。

議会審議の在り方について

（三谷議員本人の申し出により、内容は省かせていただきます。）

水害軽減対策効果と広報について　山下　淳也

議員　令和3年の降水量と同等であっても、ほぼ浸水する家屋はなくなったが、今だに水害の危険度が高い町のイメージがあり、移住定住の妨げになっている。イメージ改善の広報は。

①　これまで行われた水害対策事業の内容とそれによる軽減効果は。

②　水害の危険度が高い町のイメージを払拭するための外部への情報発信は。

農林建設課長　「河川激甚災害対策特別緊急事業」及び「新六角川水系治水対策プロジェクト」等により高橋排水機場の増強や葦の繁茂抑制対策、河道掘削などが実施された。

　また、広田川排水機場（毎秒5t）や焼米ため池の事前放流施設（24時間で20万tの排水）も完成した。

　このような各種対策により、令和3年8月豪雨と同じ規模の洪水が発生した場合でも、対策実施前の六角川水位と比較して武雄市北方町の新橋地点において約80㎝六角川の水位を下げることができ、ポンプ運転調整を回避する効果が見込まれている。

　なお、令和3年8月豪雨を基にした浸水シミュレーションでは、本町の家屋の床上浸水戸数は260戸から15戸程度に減少し、武雄市の六角川洪水調整池が完成すると、さらに10戸程度になると試算さ